

第22回かんもん景気ウォッチャー調査

平成22年2月調査結果

最終消費を中心とした関門地域の景気動向を、「第22回かんもん景気ウォッチャー調査」結果からみると、3か月前と比べた景気の現状判断DIは、前回調査（平成22年11月）から9.9ポイント上昇して38.3となり、現在の景気水準自体の判断DIは前回は1.9ポイント上回る21.7となった。なお、先行き判断DIは、47.5の見通しにある。

景気ウォッチャーによる判断を総合すると、関門地域の景気の現状は厳しいものの、一層の悪化には歯止めがかかったものになっている。

（この調査の対象先）

・大型小売店・専門店等	6人
・飲食店関係（含むスナック）	5人
・観光関連（ホテル・旅行業者）	7人
・タクシー業界	4人
・商工業団体等	8人

計 30人

〔 照会窓口：調査室 〕
TEL：083-223-3632

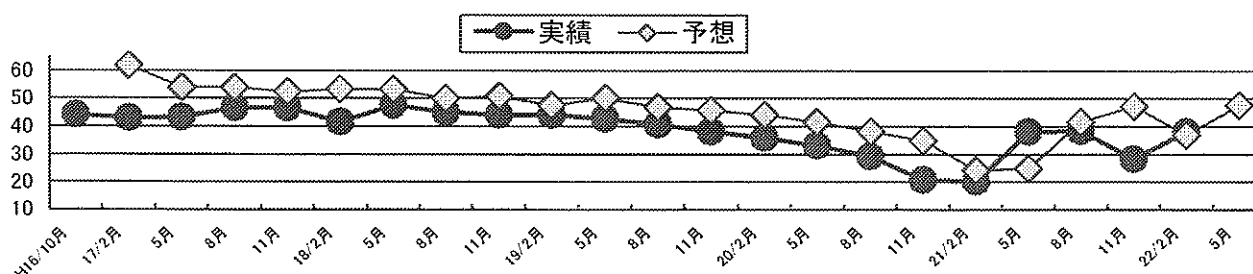
調査結果の概要

1. 景気の方角性に関する判断D I

3か月前と比べた景気の方角性に関する判断D Iは、38.3と前回調査を9.9ポイント上昇した。なお、平成22年5月頃を見通した先行き判断D Iは、47.5となることが見込まれている。

平成21年 5月実績	平成21年 8月実績	平成21年 11月実績	平成22年 2月実績	平成22年 5月予想
38.3	38.4	28.4	38.3	47.5
〔前回調査時点 予想25.0〕	〔前回調査時点 予想41.7〕	〔前回調査時点 予想47.3〕	〔前回調査時点 予想37.1〕	

▽「景気の方角性に関する判断D I」（調査開始時点からの推移）



(注)DIの見方

判断DIは「50」を基準点として、上回れば「景気が良い」との見方が多く、下回れば「景気が悪い」との見方が多いことを示す。

(1) 3か月前と比べた景気の現状判断D I

3か月前と比べた関門地域の景気の現状判断D Iは、38.3と前期を9.9ポイント改善したが、「景気は横ばい」であることを示す50.0を割り込んだままとなっている（内閣府による全国の調査結果は42.1）。

景気ウォッチャーからは、「レトロ地区などの企画・イベントの効果から賑わいは増したが、購買まで結びつかない」（商工団体等）など依然厳しいとする意見が多く寄せられている。一方、「エコポイント制など政策効果が大きい薄型テレビなどを中心に引き続き好調を維持している」（専門店）、「この時期はフクがありどんどん落ち込む感じはない」（観光関係）、「全国からのネット予約などで高額商品も伸びている」（観光関係）などの意見があり、関門地域の景気は依然厳しい状況にあるものの、一層の悪化には歯止めがかかったものになっている。

(2) 景気の先行きに対する判断D I (3か月先までの見通し)

3か月先までの景気の判断D Iは47.5となった(全国の先行き判断D Iは44.8となっている)。

景気ウォッチャーからは、「少しだが大口案件予約が動いていることや、春需要期待などから上昇を見込んでいる」(観光関係)とする意見とともに、「一般景気動向が不透明であり、雇用、年金制度等も含めた所得面で将来若干なりともよくなるとの雰囲気が出てこない状況では、先行きは厳しい」(小売)、「催事・企画での反応はよいが長続きはせず、現在のシビアな顧客動向をみると急激な回復はなかなか見込み難い」(小売)とする慎重な意見がある。

また、「消費の回復には時間がかかる。産直商品など顧客要望を最大限取り入れる品揃えなどで販売増を目指す」(小売)、「トロッコ列車『潮風号』の運行再開や地域をあげての集客のための企画を進めることで改善を見込める」(商工団体)、「3月開設の海響館ペンギン村は施設、展示のユニークさにおいて集客効果は大きいと思われ期待している」(観光関係)、「海峡まつりをはじめ観光集客イベント、関連情報発信の面で充実したラインアップが組み立てられており、その効果に期待したい。」(観光関係)といった意見が出されているところである。

2. 現在の景気の水準に対する判断D I

関門地域の判断					(参考) 全国の判断				
21年 2月	21年 5月	21年 8月	21年 11月	22年 2月	21年 2月	21年 5月	21年 8月	21年 11月	22年 2月
18.3	26.7	21.4	19.8	21.7	14.7	23.1	28.7	24.9	30.6

現在の景気の水準自体が「良いのか」、あるいは「悪いのか」に関する判断D Iは、前回調査から1.9ポイント改善して21.7となった。

以上

(参 考)

かんもん景気ウォッチャー調査について

1. 調査の目的

関門地域において、景気に関連深い動きを直接観察できる立場にある方々のご協力を仰ぎ、この地域の動向を的確かつ迅速に把握するとともに、景気動向判断の基礎資料の1つとすることが目的。

2. 調査の範囲

(1) 対象地域

下関市周辺地域および北九州市門司港周辺地域。

(2) 調査客体

個人消費の動向を中心に景気動向を敏感に反映する現象を観察できる方々の中から、30人の方にご協力いただいている。

3. 調査事項

(1) 景気の現状に対する判断（方向性）

(2) (1) の理由

(3) 景気の先行きに対する判断（方向性）

(4) (3) の理由

(参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4. 調査・発表時期

調査は、毎年4回（2月、5月、8月、11月の月中）実施し、その翌月発表する。

5. DIの算出方法

景気の現状、又は先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DI値を算出している。

評価	良 い (良くなっ ている)	やや良 い (やや良 く なっている)	どちらとも 言えない(変 わらない)	やや悪 い (やや悪 く なっている)	悪 い (悪くなっ ている)
点数	+ 1	+ 0. 7 5	+ 0. 5	+ 0. 2 5	0